

図7 皺の多い症例～医師より：左下腹部（S状結腸）で造設～

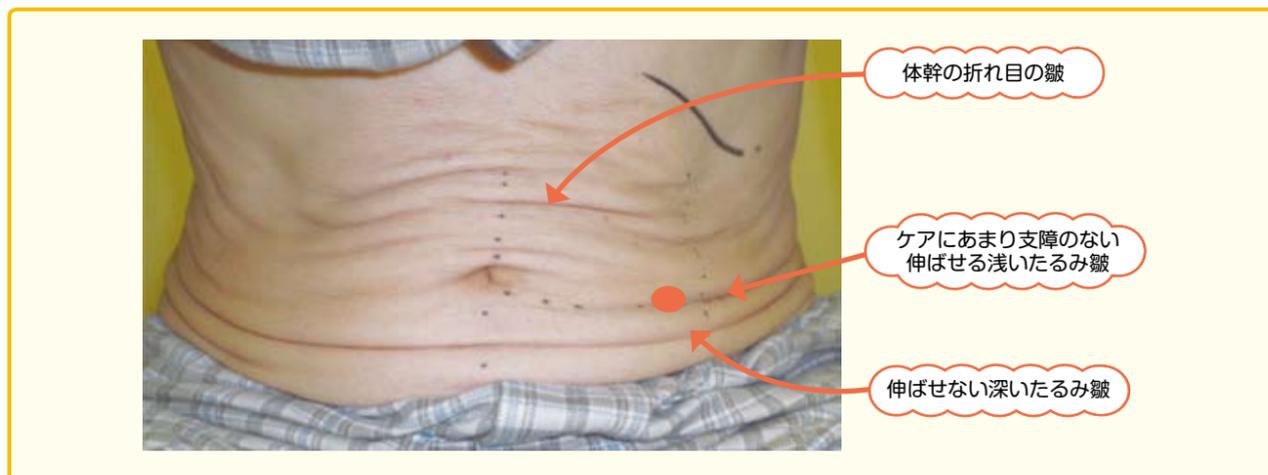


図8 皺の区別をつける

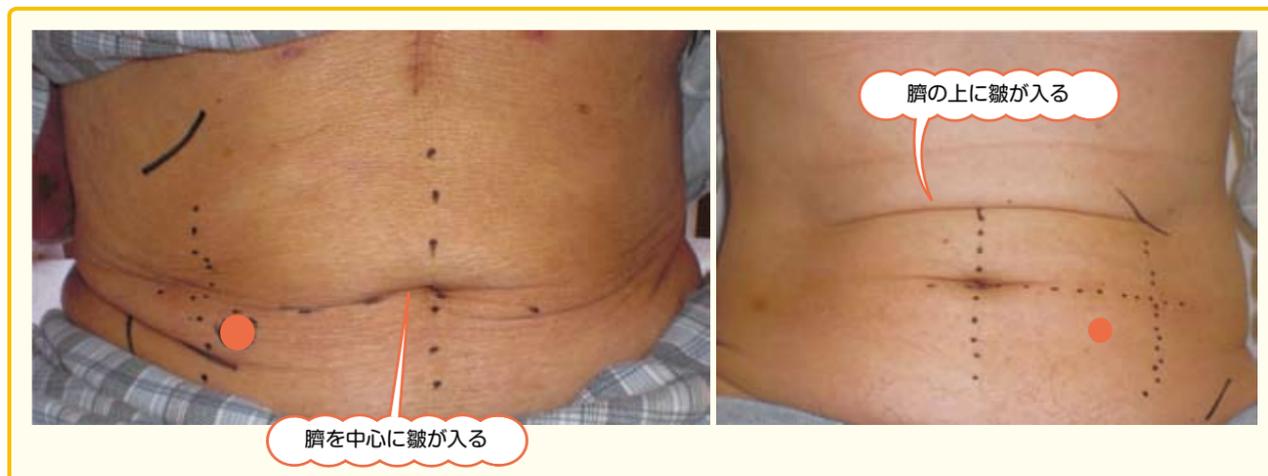


図9 主な中肉中背の症例の皺

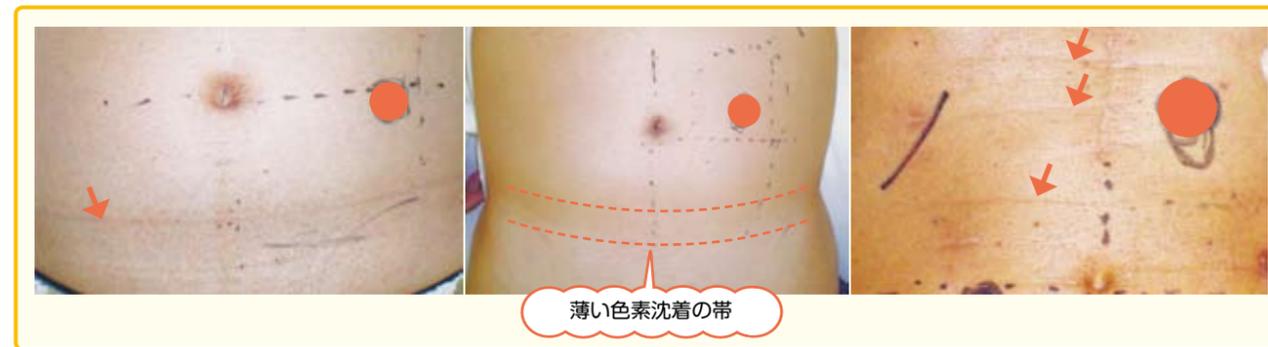


図10 皺の跡を見つける

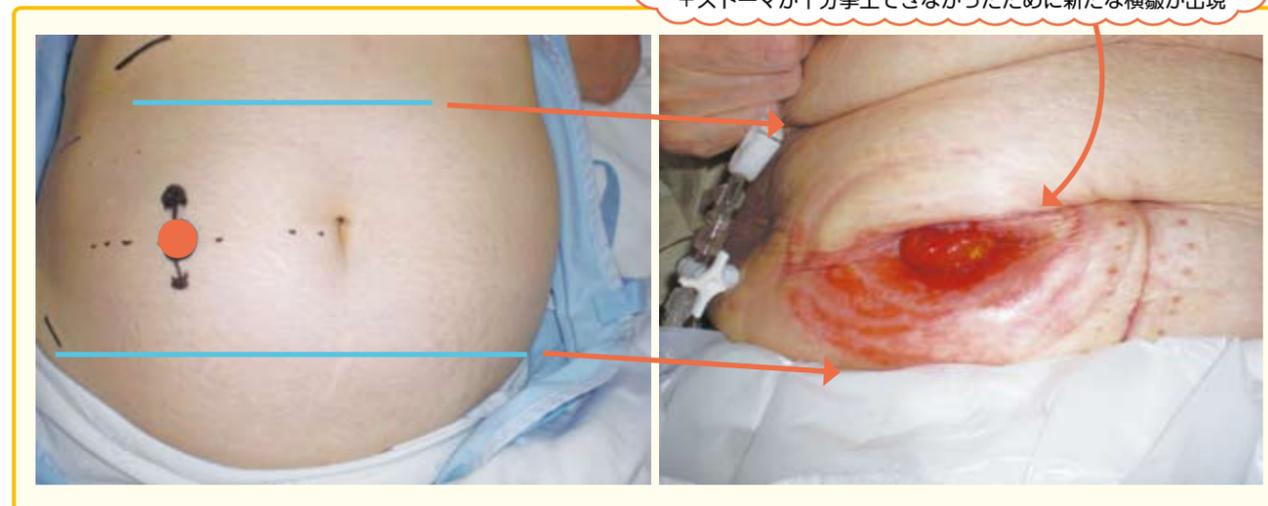


図11 術前に皺の位置を手で押さえてもらう

強いイレウスのため皺がない

強いイレウスの場合は、座位になっても腹壁にまったく皺が入らず、術後伸展した腹壁がしぼんで新たに皺が現れる場合があります。イレウスは肥満と違って急激に腹壁が伸展されるため、皮膚をよく見ると「皺の跡」が残っています。皺が太く色素沈着を伴っているほど、その部位が深い皺であることが予測されます（図10）。また、経験上ですが、「くびれのあるところを手で押さえてください」といって患者に腰に手を当てるように両手でおなかを挟んでもらうと、おおよそ正確に押さえられるため、それで皺の位置を予測することも

あります。術後は創やストーマの状況で新たに皺が入ることもありますが、予測した皺の位置は一致します（図11）。深い皺は股上の深いパンツのゴムの位置である場合もあるため、はいているパンツの種類（ズロース・トランクス・ステテコ）で股上の長さを目安にすることもあります。ローライズやビキニタイプのパンツでは目安にはなりません。

たるみ皺がある

若いときから体重が減っている、出産経験がある場合は、高齢になるとたるみ皺が出る場合があります。一度伸展していた腹壁が「しぼむ」ことで、皮膚のたるみが出てくるのではないかと考えられ